



## 水稻

大網経済センター  
営農指導員 小棚 哲義

# 農作業 テクニカル ダイアリー

Agricultural-work

technical diary



## イチゴ

東金経済センター  
営農指導員 並木佑輔



### 育苗管理について

イチゴは親株から始まり、本圃へ定植するまで長期間の育苗管理となります。この育苗時の管理が定植後の生育、収量等に大きな影響を及ぼすため、暑さ対策や病害虫防除を含めた充分な管理が必要となります。

### 施肥

育苗時の肥料は親株からの切り離し後、ポットへ置肥（緩効性肥料）を施用し、葉色が薄くなり始めたら液肥等の追肥を行います。

### 育苗時の温度管理と灌水

本年は、夏季の高温予報が出ており、特に育苗時における高温対策が重要になると考えられます。施設下では充分な換気を行い、高温時には寒冷紗を使用して暑さを凌ぐ対策を図りましょう。また、品種や栽培条件により異なりますが、育苗ステージにより灌水量を調整しましょう。

### 病害虫防除（表①、②参照）

育苗期間中は高温多雨の時期になります。そのため、約10日間隔での病害虫防除をお勧めします。現状では炭疽病の発生ないようにします。

### 中干し後の水管理

中干しを終えると、稻の体内では幼穂の形成が始まります。中干し後は、速やかに間断灌がい（湛水と落水を数日おきにくり返す）に移行しましょう。その後、幼穂が確認できたら、出穂（開花期までは湛水管理を行います。この時期は稻が最も水を必要とする時期となるため、土壤中の水分が不足しないようにします）。

収穫作業を見越して、早くから落水をしている圃場もありますが、早期に落水すると米粒の肥大が悪く、収量が伸びません。それだけでなく、根の活動が弱まり、未熟粒や胴割粒の増加にもつながります。刈り取りの5～7日前頃までは土壤が乾燥しないよう、間隔灌がいで管理しましょう。

### 高温対策

近年では、登熟期間中の猛暑により、白末熟粒および胴割粒が多く発生し、品質の低下の原因となっています。高温が続く場合は、間断灌がいの間隔を狭め、地温の上昇を抑えましょう。

### 斑点米カメムシ対策

昨年はカメムシ類の吸汁による、斑

は少ないようですが、発病すると治療が極めて困難な病害ですので、予防に努めることを重視してください。近年では、うどんこ病の発生が増えており、注意すべき病害なので防除を徹底しましょう（写真①参照）。

ハダニ類は、本圃への定植前までに徹底的に防除しておかないと収穫期にハダニ類は、本圃への定植前までに

が発生する可能性があります。近年、本圃での天敵農薬の利用により、ハダニ類の防除は効率的に行えるようになりますが、定植前までの薬剤散布で本圃にハダニ類を持ち込まないことが最も重要な防除方法の一つとなります。また、定植後も天敵農薬放飼前には化学農薬を使用して、ハダニ類の密度を下げた状態で天敵農薬（スパイカルE）を放飼するよう心掛けましょう。

表① イチゴのうどんこ病に登録のある主な殺菌剤

薬剤名	使用倍率	使用時期	総使用回数	備考
ベルクートフロアブル	1000倍	育苗期（定植前）	5回	予
フルピカフロアブル	2000倍	前日	3回	予
ガッテンフロアブル2	2000倍	前日	2回	予・治
アミスター20フロアブル	1500倍	前日	本圃3回	予・治

※予…予防 ※治…治療

表② イチゴのハダニ類に登録のある主な殺虫剤

薬剤名	使用倍率	使用時期	総使用回数
コテツフロアブル	2000倍	前日まで	2回以内
コロマイト水和剤	2000倍	前日まで	2回以内
サンマイトフロアブル	1000～1500倍	前日まで	1回以内
マイトコーネフロアブル	1000倍	前日まで	2回以内



写真①  
イチゴの葉に発生したうどんこ病  
(提供元:JA全農ちば)

### 5月の分析経過について

合計21点

残留農薬分析点数	多成分一斉分析
ソラマメ	2点
春ダイコン	1点
小玉スイカ	1点
キャベツ	1点
春トマト	2点
玉ねぎ	1点
夏ネギ	3点
春人参(ちばエコ)	1点
春人参	2点
トウモロコシ	2点
小松菜	1点 (インショップ)
ほうれん草	1点 (インショップ)
葉ショウガ	1点 (緑の風)
シソ	1点 (緑の風)
キュウリ	1点 (緑の風)

※残留農薬分析において、基準値を上回る成分は検出されませんでした。

土壌診断点数 合計65点

写真② 管内でみられる主なカメムシ [提供元:シンジエンタジャパン(株)]



表③ カメムシ類の防除時期と登録薬剤

散布時期	主な登録薬剤
1回目 出穂期～穗揃期	スタークリーク粒剤、キラップ粒剤、スタークリーク豆つぶ等
2回目 乳熟期ごろ	スタークリーク液剤、トレボン粉剤等

※「出穂」…止め葉の幼鞘から穂の先が出ること（少しでも出れば出穂とみなします）

※出穂期…全体の4～5割が出穂

※穗揃期…全体の8～9割が出穂

※乳熟期…穗揃期の7～10日後